

第 32 期第 6 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 令和 8 年 5 月 28 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分
せんだいメディアテーク 7 階 会議室
- ◎ 出席委員の氏名 菊地弘志委員、木村ひろみ委員、児玉忠委員、
小林直之委員、齋藤千里委員、佐々木祐二委員、
佐藤孝子委員、佐藤幸雄委員、中川美佳委員、
渡邊勝宏委員、渡辺祥子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 湯村倫子、市民図書館副館長 伊勢貴
広瀬図書館長 佐藤雅智、宮城野図書館長 村上佳子
榴岡図書館長 柴田雅子、若林図書館長 佐藤博信
太白図書館長 横山弘達、泉図書館長 那須野昌之
市民図書館企画調整係長 久慈裕子
市民図書館図書館サービス係長 吾妻由美
- ◎ 会議の概要
- 1 開 会
 - 2 挨拶
館長挨拶
副会長挨拶
 - 3 議長選出
仙台市図書館条例施行規則第 14 条第 3 項及び同規則第 14 条第 4 項により、会長欠席に伴う
職務代行として副会長を議長に選出。
 - 4 会議録署名委員指名
副会長より齋藤千里委員を指名。
 - 5 報告事項
(1) 令和 8 年度仙台市図書館運営方針について

（市民図書館副館長 報告）

資料 1 に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

議 長 図書館振興計画の 4 つの方向性は、非常に緻密・網羅的で、それを毎年実施するのは
現実的でないため、年度ごとに重点化するものが設定されている。
事務局の報告について質問、意見はあるか。

佐々木祐二委員 現時点では詳細は未定だと思うが、図書館の新システムはどのようなものになるイメ

ージか。

事務局 新システムについては、現行業務はすべて継続して実施可能となるよう仕様を設定する。また、各業者から新しい機能追加について提案を受け、内容や予算等の比較・検討を行い、受託業者の選定等を進めていく予定である。

（２）令和８年度仙台市図書館予算概要について

（市民図書館副館長 報告）

資料２に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

議長 事務局の報告について質問、意見はあるか。

小林直之委員 公共図書館においては全体的に予算縮減の傾向がみられる中、資料購入費が維持されていることは大変喜ばしい。ただし、物価が上がり、本の価格も非常に上がっている中で、予算的には圧迫されていると思う。

議長 ある程度予算が確保されたということなので、有効に活用してほしい。

（３）令和７年度蔵書点検結果について

（市民図書館副館長 報告）

資料３に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

議長 事務局の報告について質問、意見はあるか。

各委員 特になし。

（４）大規模改修工事に伴う広瀬図書館の臨時休館について

（市民図書館副館長 報告）

資料４に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

議長 休館から臨時窓口開設まで１か月のタイムラグがあるのは、準備のためにこのくらいの期間が必要だということか。

事務局 臨時窓口の開設準備のほか、書庫も含めたすべての資料を倉庫に移動する作業等もあるため、作業期間として１か月は必要となる。

議長 休館期間について、利用者の方々への周知をお願いしたい。
事務局の報告について質問、意見はあるか。

各委員 特になし。

（５）学校図書館サポートデスクについて

（泉図書館館長 報告）

資料５に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

- 議 長 新規事業ということで苦労も多いと思うが、頑張っていたきたい。
事務局の報告について質問、意見はあるか。
- 中川美佳委員 学校図書館サポートデスクについては、大変心強く、非常に期待している。各校を訪問し、その学校に必要な支援を提案してもらえるのはありがたい。学校図書事務員向け研修もより専門的になるだろうし、その上で図書館と学校図書館のつながりの支援を大事にしてくれることは非常に大きい。10月に行われる中学校の図書館部会で泉図書館職員を招き、運用開始後の状況を伺う予定である。
- 泉 図 書 館 長 サポートデスクへの申込み方法は、せんだいオンライン申請サービスのみとなるか。
最終的にはオンライン申請のみとしたいが、定着するまでは電話等での相談にも対応したいと思っている。
- 中川美佳委員 今まで学校図書事務員へのフォローが薄く、学校が困ってきたということもあり、その部分を全面に出しているのだと思うが、学校図書館運営を中心となっていくのは、学校図書館担当教員や司書教諭であり、学校図書事務員はそれ以外の事務全般を担当しているのが現状。チラシだと教諭が対応することと学校図書事務員が対応することが併記されており、サポートの対象が分かりにくいと感じた。
- 議 長 学校現場では、運営のチーフである教員と学校図書事務員との連携が大事だと思い始めているが、学校図書事務員が教員や校長が知らないところで動くことの無いよう、学校図書事務員だけがサポートの対象ではないことを周知願いたい。
- 議 長 サポートの対象は学校図書館であり、その中に司書教諭や担当教諭、学校図書事務員がいるという立て付けの方が学校としては受け入れやすいと思う。学校によっては教諭と学校図書事務員の連携がうまくとれていないところもあるので、そのような課題についても広報紙等で取り上げることで、理解促進につながるのではないかな。
- 佐々木祐二委員 また、支援によって改善した好事例等を積極的に発信し、サポートデスクを活用してみたい、参考にしたいと思ってもらえるような形になればいいと思う。
- 泉 図 書 館 長 小学校の図書館担当教員は、以前はベテランが多かったが、昨今の教職員の人事配置で若い先生も大分多くなっており、担当となっても何をやっていいかわからず、学校図書館業務が停滞している学校が結構多い。そのような学校の場合は、経験のある学校図書事務員が運営の中心になっていたりする。
- 泉 図 書 館 長 学校図書館サポートデスクを活用することで、図書館担当教員もサポートしていただけるし、学校図書事務員同士の横のつながりもできるので、これからの学校図書館、子どもたちの読書活動を推進する上で本当に貴重な存在になるのではと期待している。
- 泉 図 書 館 長 最初から100点満点ではなく、今後の改善の余地を考えて60～70点ぐらいの目標でスタートし、現場の声を聞いて進めていく必要があると思う。学校によって学校図書館の運営の仕組みや情報の伝達方法などが様々なため、経験の少ない学校図書事務員の方が学校で何を展開したらよいのか判断がつかないときなどにサポートできたらと思う。
- 学校図書館に関わる部署は、研修関係は教育指導課、モデル校事業は生涯学習課と縦割りの状態で、そこに図書館が加わると、学校ではどれを誰に相談していいか混乱すると思うので、教育委員会の中である程度整理が必要と考えている。

議長 教育委員会や図書館協議会、小学校・中学校、それらが互いにキャッチボールをしていく感じで呼応しながら事業を進めていくと、効果が上がっていくのではないかと思います。

齋藤千里委員 いろいろな学校図書館を見る機会があるが、学校や学校図書事務員によって温度差がある。

図書館が毎年開催している児童文学者講演会で、2、3年前にある作家の講演を聞いた。彼女は家庭では親から虐待を受け、学校ではいじめを受けていたが、そのような状況の中、心のよりどころは学校図書館で、そこで本を読むということが自分にとって本当に救いになっていたという話をされていて、そのことがとても心に残っている。

公共図書館が学区外であればこどもは一人では行けず、親がつれて行かなければ、図書館に行くことができない。また、家に本がないこどもも多い中、誰もが本を手に取り、本を読める場所として、学校図書館はものすごく大事なところだと感じている。

一冊の本との出会いが人生を左右するきっかけになるかもしれない、その出会いの機会を多くすることは大切だと思う。学校図書館で読書の楽しさを知ったこどもが、年齢があがって一人で公共図書館に行くようになることもある。そういう意味でも学校図書館を支援するサポートデスクに期待している。

議長 今後検討していく上での着眼点は、人と人との温度差。それと連絡やコミュニケーションなど運営プロセス上の目詰まりだと思う。支援すべきことがクリアに可視化されるようになるとよいと感じた。

渡邊勝宏委員 宮城県図書館で4月から5月にかけて「子どもの本の展示会」を実施したが、仙台市の学校図書事務員の方も選書に來られていた。今年度は平置きの本を多くしたり、特に見せたいものに印をつけるなど、本の見せ方を工夫したところ、来館者の立ち寄り率が変わった。齋藤委員から本との出会いについて話があったが、本の見せ方の技術もあると思う。

宮城県図書館の第1回研修会のテーマを展示計画の作成としたが、どういうものをピックアップしてどう見せていくのか、見せ方にも技術があるということを知ってもらい、図書館に関わる職員が身に付ける技術として位置付けていただきたい。

議長 本との出会いというのは古くて新しいテーマだが、いつの時代でも、本とどのように出会わせるかというところに専門性が発揮されるように思う。

他にあるか。

各委員 特になし。

（6）はじめての絵本事業について

（市民図書館副館長 報告）

資料6に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

議長 事務局の報告について質問・意見等はあるか。

佐藤孝子委員 ブックスタート事業の実現に向けた尽力に深く感謝する。

仙台市では図書館主体で10月から事業を開始するとのことだが、図書館協議会や市民団体などからももう少しいろいろな意見を取り入れ、確認してから開始しても遅くないのではないかと。他市では事業開始の1年ぐらい前から推進委員会を立ち上げ、図書館協議会や図書館職員、関係者によって事業を検討した例もある。事業を長年行っていく中で、予算が足りなくなって事業が中止されたり、ブックスタートの基本的な理念が形骸化してただの絵本のプレゼント事業となってしまうという都市がある中、仙台市は今年から新しく開始できるというラッキーな状態である。加えて、市民ボランティアの協力なしでは成し得ない事業で、様々なボランティア講座が実施されているが、ボランティアとして意識すべき注意事項や基本的なルールなどを図書館職員からきちんと説明を行い、確認してから事業を開始していただきたい。また、事業に関わる人たちの意識に差が生じないように、全国のブックスタートを支援しているNPOブックスタート職員による講習も行っていたきたい。

仙台市で待ちに待ったブックスタートが始まるということで、大変注目が集まっていて、期待もされている。

市民図書館長 ブックスタートのモデルがあり、それを各都市で実施している状況ではあるが、仙台市は集団健診ではなく、それぞれが病院に行き受診する形になっている。また、育児教室ではしっかりとしたプログラムが組まれており、そこにブックスタートが加わると母子の負担増となることから、図書館主体で事業を実施することとした。図書館で実施する以上は、母子保健の観点ではなく、家庭での読書や図書館の継続的な利用という視点に立って始めさせていただく。図書館協議会での議論を受けて実施していきたいと考えている。

ブックスタート開始に向けて図書館でボランティア養成講座や事業説明会を行っているところだが、実績のあるNPOブックスタートからも理念や技術的な面などを学びながら実施していきたい。

佐藤幸雄委員 仙台市で出生する乳児は年間約6,000人だが、この事業の対象者に対し、周知して来ていただくことが大事である。NPOブックスタートではそのために健診と絡めて実施するという考え方だと思う。

仙台市の場合は、乳幼児健診の機会ではなく、別の形で実施となるため周知が大変だと思うが、市政だよりやチラシ・ポスター等の多種多様な広報活動を行うなど、何とか100%近くの赤ちゃんや保護者に情報が届くよう工夫していただき、その方々が絵本を通じて図書館や絵本が好きになり、それが継続的なものとなるよう、ぜひ頑張っていたきたい。

齋藤千里委員 小学生への読書ボランティアを行っているが、生まれたときの読書環境が大事だと感じている。本が一冊もない家庭や大人が皆働いている家庭が増え、「うちどく」を求めているのは酷な状況だが、やはり乳児期から本や物語に触れ合うことが大事だし、そのことがやがて将来の図書館ユーザーにつながっていくのではと感じる。事業開始にあたり、図書館に行きやすい環境づくりや広報・周知の徹底、出張場所の検討など丁寧に取り組んでほしい。そのために、例えば図書館に行くのが困難な方向けに、のびすくや児童館

などを上手に利用していただくことで、この事業を行き渡らせることができると思う。事業開始後にいろいろな問題点が出てくると思うが、途中でやめることの無いように相談しながら取り組んでいってほしい。

市民図書館長 保護者にはエンタメや遊びの一つとして来ていただければよいのではないかなと思うが、約 6,000 人ともなると、絶対に行かなければならない乳幼児健診でも 100%の参加ではない中、絵本が貰えるからと言ってはたして図書館にどのくらいの方が来ていただけるのか正直わからない。そのため、乳幼児健診やのびすくを所管することも若者局と連携して取り組んでいきたいと思う。

事業を継続していけるのかという点について、おはなし会は、保育所や児童館に出向いて行うことも含め、これまで図書館が長く実施してきたことであり、それにプラスアルファするものと思えばあまり心配はいらないが、よく考えながら事業を実施していきたい。

小林直之委員 ブックスタートという言葉を使わずに「はじめての絵本事業」と銘打つことで、仙台スタイルを形作ったり、仙台市図書館が得意とするおはなし会の延長線上に位置づけたり、のびすく等に出張して実施するとしても、あくまで図書館の事業であるということで非常に工夫されていると思った。

令和 8 年度予算は初年度 6 か月分で約 462 万円なので、通年では倍の 1,000 万円規模になると思うが、今後この事業費は資料費に含まれてしまうのか。

市民図書館長 資料費とは切り分けてこの事業単独の予算が措置されており、今後も資料費に含まれることはない。

小林直之委員 資料費約 1 億円に対し事業費約 1,000 万円は結構インパクトがある額で、一度始めるとなかなかやめられないのがこの事業の難しいところだと思う。資料費と比較されたり、仮に事業をやめることがあったときに、これまで仙台市図書館が行ってきたおはなし会などの予算を減らすように見えてしまったりするのが非常に怖い。予算措置に係る部分は、十分な説明と明確な回答ができるように準備しておく必要があると感じている。

佐藤孝子委員 もともとのブックスタートは、基本の理念としてシェアブックということがある。赤ちゃんの反応を見ながら 1 対 1 で行うものではあるのだが、はじめての絵本事業においては、おはなし会後の交流の時間や絵本の読み方などの読書相談の時間を大事にしたいと思う。

議 長 6,000 人規模の事業において、クオリティ保証の難しさ、費用対効果、エビデンスを提示しての説明の難しさがある。この事業の理念や目的をずっと大事にすること、継続した予算措置に向けエビデンスベースによる説明を可能にすることなど引き続き検討するとよいと思う。

佐藤幸雄議員 この事業のエビデンスや効果は、事業対象者へのアンケート等で図られる満足度に尽きると思う。外部からみてもなかなか分からないが、当事者の満足の声が多ければ多いほど費用対効果が高いと言えるのではないかな。満足度が非常に大事だと思う。

議 長 エビデンスとして説得力を持たせるためにも、質とともに量の確保も願います。

他にあるか。

各 委 員 特になし。

6 そ の 他

配布チラシの説明

次回協議会の案内

7 閉 会